

phil漢方100号記念号へのご寄稿

一般社団法人 日本東洋医学会 会長
三谷ファミリークリニック 院長
奈良県立医科大学 大和漢方医学薬学センター 副センター長・特任教授

三谷 和男 先生



1983年 鳥取大学医学部医学科 卒業
同 年 大阪大学大学院医学研究科博士課程
1986年 和歌山県立医科大学 神経病研究部 (現・脳神経内科学)
1993年 木津川厚生会加賀屋病院
2003年 京都府立医科大学 東洋医学講座 助教授 (07年より准教授)
2007年 三谷ファミリークリニック 開設
2009年 京都府立医科大学 漢方外来 特任教授
2014年 奈良県立医科大学 大和漢方医学薬学センター 副センター長・特任教授
2021年 京都府立医科大学 総合医療・医学教育学教室 (漢方外来) 特任教授

phil漢方100号おめでとうございます。私が担当させていただいたのは、主に各分野でキラリと光るものをもってご活躍されておられる先生方との対談でした。第1回目は新谷卓弘先生からスタートしましたが、各回ご登壇いただく先生方のphilosophy、魅力あふれる人間味そしてその先生しか知り得ない数々の識見など、本当に勉強させていただきました。対談前の緊張感とともに、先生方のあふれる個性に魅惑されたことが懐かしく思い出されます。原稿を整理するとき、いや、先生はもっと違うお話をされたかったんやないかな、もっとこの先生の個性を引き出せなかったのかな、と反省すること頻りでしたが、この世界に関わっておられる先生方のあふれ出る泉のようなお話に読者の先生方も魅せられたのではないのでしょうか。

そうです。対談は、言葉とことばの行き来だけではなく、その背景に「望診」があります。望診はいうまでもなく漢方医学的診察では重要な位置を占めています。西洋医学が「個々の臓器組織を分析してみていく」のに対し、望診は「全体 (の雰囲気) を把握する」ことに重点が置かれますが、私のライフワークとしての研究課題である舌診は、まさに望診の一環であり、舌診を学ぶことは望診を理解することと同義とみています。先生方のお話しされる内容は、文字としての原稿にはなりませんが、先生方の「お伝えになりたいこと」はそれだけではありません。「行間を伝える」よりもっと大きなメッセージを毎回いただきました。先生方が力を入れて取り組んでおられることが、語りを通して多くわかったんです。

phil漢方が伝えたいこと、もちろん中身の症例報告や漢方医薬学の知識のレベルはもちろん高いのですが、それ以上に漢方に取り組んでおられる先生方の「人としてのおもしろさ」じゃないのでしょうか。もう一度読み返して、またあの密度の濃いひとときに戻りたいと思います。

三谷 和男